第3章　環境影響評価の項目

環境要素の区分			影響要因区分 / 細区分	工事による影響									存在による影響				供用による影響										工事（会期終了後）による影響			
				資材等の運搬	資材等の集積	重機の稼動	土工＝切土・盛土・発破・掘削等（重機の稼動を除く）	コンクリート工事（重機の稼動を除く）	建築物等の建設（重機の稼動を除く）	仮設物等の解体（重機の稼動を除く）	有害物質の使用	夜間の照明等	改変後の地形	樹木伐採後の状態	改変後の河川・池沼	工作物等の出現（建築道路・植栽地等）	自動車交通の発生ーアクセス	自動車の走行ー会場内及び周辺	人の入り込み利用	エネルギーの使用（固定発生源）電力の使用	エネルギーの使用（固定発生源）都市ガスの使用	水使用（処理施設の稼働）	有害物質の使用	農業・肥料の使用	食料・物品の消費	場内放送等の実施	夜間の照明等	ヘリコプターの発着	機材・廃材等の運搬	重機の稼動	施設等の解体工事（重機の稼動を除く）	整地工事（重機の稼動を除く）
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	大気環境	大気質	SO2	○		○											○	○											○	○		
			NO2	○		○											○	○		○									○	○		
			CO														○	○														
			SPM	○		○											○	○											○	○		
			粉じん	○	○		○			○	○																		○		○	○
			有害物質								○												○									
		騒音	建設工事騒音(Lmax)			○	○																							○		
			自動車交通騒音(LAeq)	○													○	○											○			
			複合騒音(LAeq)	○		○												○	○							○		○	○	○		
		振動	建設工事振動(Lmax)			○	○																							○		
			自動車交通振動(L10)	○													○	○											○			
		悪臭	臭気指数																			○			○							
		その他	低周波音				○																									
	水環境	水質	SS				○															○										○
			pH					○														○										
			BOD又はCOD																			○										
			T-N																			○		○								
			T-P																			○		○								
			有害物質								○												○	○								
		底質	底質								○												○	○								
		地下水	地下水位				○						○			○																
			地下水汚染								○												○	○								
		その他	河川流量				○						○	○	○	○						○										
			河川水温																			○										
			水辺環境				○								○							○										
	土壌環境・その他の環境	地形・地質	現況地形										○		○																	
			土地の安定性				○						○	○		○																○
			土砂流出				○						○	○																		○
		地盤	地盤沈下				○									○																
		土壌	土壌汚染				○				○												○									
			土壌（表土）				○						○																			○
		その他	光害									○															○					
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	植物		注目すべき植物種				○						○	○	○	○			○					○								○
			植生・注目すべき植物群落				○						○	○	○	○			○					○								○
	動物		注目すべき動物種	○		○	○				○	○	○	○	○	○		○	○			○	○	○		○	○	○	○	○		○
	生態系		里地生態系										○	○	○	○																
人と自然との豊かな触れ合い	景観		注目すべき景観資源		○		○		○				○	○	○	○			○												○	○
			注目すべき視点からの眺め		○		○		○				○	○	○	○			○												○	○
	触れ合い活動の場		注目すべき触れ合い活動の場	○		○	○					○	○	○	○	○		○	○							○	○	○	○	○		
環境への負荷		廃棄物等	廃棄物（物質循環）				○		○	○												○			○						○	
			残土				○																									○
			水循環																			○										
		温室効果ガス等	CO2	○		○		○	○			○		○			○	○		○	○	○			○		○	○	○	○	○	
			熱帯材等外材使用					○	○																○							

＜影響要因の区分の考え方＞

工事による影響：影響が工事中のみに限定される一過性の影響。工事による影響であっても永続的な影響は存在による影響に含める。

存在による影響：自然の改変、工作物の存在等物理的な整備によって生じる永続的影響。

供用による影響：整備後に繰り広げられる人間活動によって生じる影響。

注：影響要因の区分の欄は、一般的な博覧会事業において想定される影響要因を掲げた「2005年日本国際博覧会環境影響評価要領」の標準例を基本としたが、本博覧会の目的及び事業実施に当たっての基本的方針を踏まえ、本博覧会事業においては影響要因に係る行為そのものを行わない工事中の「河川水の取水」、「仮設宿舎の設置」供用中の「エネルギーの使用（固定発生源）－石油系燃料の使用」、「排水の発生」、「地下水の取水」、「フロン・代替フロンの使用」については影響要因から除外した。

また、新たに影響要因の区分に工事中の「重機の稼動」を追加することにより、重機の稼動に伴う騒音や大気汚染物質の発生による影響と、各種工事におけるその他の行為による影響とを明確に区分した。

それにより、標準例により示された「基礎工（杭打工）」、「舗装工事」による影響は、全て「重機の稼動」によみ替えられたことから、影響要因の項目から除外した。